

2026年06月02日(火)【外為Lab】松田哲

タイトル：【オーバーナイト・ポジション】

初心者に向けて、よく言われるアドバイスに、以下のことがある。

「ポジション（外国為替取引での持ち高）は、それを作った当日に仕切り（＝反対売買を行い）、翌日にまで持ち越さない」

翌日にまで持ち越すポジションをオーバーナイト・ポジションと呼称する。

だから、一般論として、初心者はオーバーナイト・ポジションを持たないほうが良い、と言われている。

+++++

ただし、私の個人的な意見に過ぎないが、週越えをしないオーバーナイト・ポジションの場合、言い換えれば、金曜日以外にオーバーナイト・ポジションを持つ場合は、ニューヨーク市場クローズから、日付が変わるオセアニア市場には、時間的には連続性があるので、そこに大きなリスクがあるとは思えない。

もちろん、日付が進むのだから、スワップポイントが発生するが、それは、取引上のコストであり、リスクではない。

なおかつ、スワップポイントは、必ずコスト（＝支払いとなる費用）になる訳ではなく、利益（＝受け取り）になる場合もある。

だから、私個人としては、ポジションを作る際には、最初からオーバーナイト・ポジションになると想定している。

+++++

では、週越えとなるオーバーナイト・ポジションの場合はどうだろう？

通常の外為替市場には、トレンドがあり、多くの場合は、そのトレンドに沿った方向性で週越えの市場が始まる。

だから、週越えとなるオーバーナイト・ポジションであっても、つまり、金曜日のオーバーナイト・ポジションであっても、私個人としては、同様に対応してきた。

時として例外はあるが、

「多くの人が、週越えでのポジションを取らないのならば、私は、あえて、週越えでポジションを持つ」

といった対応をしてきた。

「週越えでのポジションを取らない」

ということは、初心者に向けてのセオリーと考えてきた訳だ。

+++++

過去は、上述の対応は、そこそこにうまくいった。

外国為替市場に、以下のことわざがある。

「トレンド・イズ・ユア・フレンド」

(Trend is your friend.)

トレンド（方向性）は、それほど強いものがあつた。

+++++

ところが、トランプ大統領が、再度就任してから、週越えとなるオーバーナイト・ポジション、つまり、金曜日のオーバーナイト・ポジションが、ワークしないことが増えた。

トランプ大統領がイランに戦闘を始めて以降は、ことさらにワークしない。

だから、私もスタンスを変えて、

「週越えでのポジションを取らないことにした」

+++++

金曜日のオーバーナイト・ポジションが、ワークしないことが増えた理由は、トランプ大統領の発言と行動だ、と考えます。

トランプ大統領の発言は、コロコロと変わります。

なおかつ、その発言が、真実なのか、単なる彼の願望なのか、はっきりと分からないところがあります。

それでも、マーケット（外国為替市場）は、当然のことですが、米国大統領の発言に右往左往して反応します。

特に、トランプ大統領の発言は、土曜日、日曜日になされることが多いので、週明けのマーケット（外国為替市場）が、荒れるケースが増えています。

+++++

このような状況が、未来永劫続く訳ではない、と考えます。

換言すれば、米国とイランの戦闘が終結すれば、状況は大きく変化するのだろう、と考えます。

だから、それまでの間、私もスタンスを変えて、
「週越えでのポジションを取らないことにしよう」
と考えています。

+++++

+++++

(2026年06月02日東京時間12:30記述)